

「産業安全論」

連携機関: 社会技術革新学会、石油化学工業協会

石油化学工業協会 技術部長 岩間啓一
東京大学 名誉教授 田村昌三

1. 「産業安全論」開講の趣旨
2. 2012年度後期「産業安全論」の概要
3. 2012年度後期「産業安全論」の内容
4. 2013年度後期「産業安全論」の予定

「産業安全論」開講の趣旨(1)

1. 最近の産業安全問題

- 1) 近年の産業安全問題
- 2) 東日本大震災による地震動や津波による未曾有の被害や原子力発電所の事故等

2. 産業安全問題の背景

経済発展と生活向上： 人・社会の変化、産業環境の変化

1) 人・社会の変化： 少子化、核家族化、国際化、個人尊重と豊かさ等

- ①. 倫理観の低下
- ②. 危険への感性低下
- ③. 価値観の多様化によるモチベーションの低下
- ④. 社会性の低下

2) 産業環境変化(高度化、多様化、国際化、局限化)

- 1) プロセス(設備・機器、運転、マネジメント)等： 潜在危険増大
- 2) 作業の分化・専門化・コンピュータ化： 全体像不明、内容不明
- 3) 合理化・リストラ、世代交代： 変化への対応困難、経験者不足、ベテラン不足、技術伝承問題

「産業安全論」開講の趣旨(2)

1. 21世紀の産業活動

1) 21世紀: 環境安全調和社会

2) 技術立国を目指す我が国:

安全・環境に配慮したものづくりの技術: 世界の先導性

● 最近の産業安全問題: 日本の技術を支えて現場力の低下のおそれ

2. 現場力の再構築

1) 安全の基本について問い直す

2) 最近の産業安全問題やその背景について考察する

3) 産業安全の在り方について検討する

4) 基盤となる人材育成や社会安全環境の醸成を推進する

● 学会と産業界との一体化した産業安全への取組が必要

「産業安全論」の趣旨:

1) 少人数制の採用

2) 学会、産業界からなる講師陣からの話題提供

3) 受講生からも話題提供、受講生との議論により、受講生と共に考える

● 我が国のこれからの産業安全を先導するリーダーの育成に貢献

2012年度後期開講「産業安全論」の概要

2012年度後期に開講した「産業安全論」の概要は以下の通りである。

科目番号:	ET471
レベル:	上級
定員:	15名
講義回数:	15回
期間:	2012年10月2日—2013年1月22日
講義日時:	毎週火曜日18時—20時
場所:	日本リファイン大会議室

表1 産業安全論の講義項目と講師

I. 安全の基本 東京大学名誉教授 田村昌三

II. 産業における安全問題と背景

1. 産業における安全問題と要因(1) 石油化学工業協会技術部長 岩間啓一
2. 産業における安全問題と要因(2) 三菱化学(株)環境安全品質保証部アドバイザー 荒井保和
3. 産業における安全問題の背景 東京大学名誉教授 田村昌三

III. 産業安全の向上

1. 安全文化を考慮した産業保安 東京大学名誉教授 田村昌三
2. 現場力の強化 東京大学名誉教授 田村昌三
3. 産業安全に向けての産業界の取り組み(1)住友化学(株)レスポンシブルケア室環境・安全部長
平山隆一
4. 産業安全に向けての産業界の取り組み(2)JSR(株)環境安全部長 井村裕
5. 産業安全に向けての産業界の取り組み(3)三菱化学(株)常務執行役員 梶原泰裕

IV. 産業の安全と社会における安全環境の構築のための安全教育・啓発の体系化

1. 安全学・安全工学の体系化と社会貢献および社会における安全環境の構築 東京大学名誉教授
田村昌三
2. 家庭教育からはじまる体系的な安全教育プログラムの構築と実践 東京大学名誉教授 田村昌三
3. 産業界における安全教育・啓発と共有化(1)(社)山陽技術振興会副会長、人材育成室室長 池上正
4. 産業界における安全教育・啓発と共有化(2)三井化学(株)生産・技術本部生産・技術企画部
技術研修センター長 森山義晴

V. 総合討論

2013年度後期開講「産業安全論」の予定

2013年度後期に開講する「産業安全論」の予定は以下の通りである。

科目番号： ET471
レベル： 上級
定員： 15名
講義回数： 15回
期間： 2013年10月7日—2014年2月17日
講義日時： 毎週月曜日18時—20時
場所： 日本リファイン大会議室

講師陣：化学安全の専門家が多く、化学産業安全を中心とした話題が多い

受講生：化学産業分野を中心